

## 第2回熊本市自治推進委員会のまとめ

平成22年7月6日開催

### 1 「(仮称) 参画と協働のまちづくり条例」づくりの論点整理について

- ・ 荒木副委員長の配布資料より
  - 論点① 参加・参画・協働の登場背景を理解しておくこと
  - 論点② 参加・協働条例の制定状況と特色による分類
  - 論点③ 類型別概要（盛り込まれている内容から若干の抽出）
  - 論点④ 参加・協働の意味と原則について
  - 論点⑤ NPO活動の意味について
  - 論点⑥ 参加協働の理念・原則の規定について
  - 論点⑦ 参加・協働の仕組みについての定め

### 2 検討すべき項目・内容について

- ・ 熊本市の優位性を熊本市民がもっと認識できるような行政のPRが大事である。  
【中島洋委員】
- ・ 多くの市民が参加するための工夫された市民活動のプログラムづくりが大事である。【平橋委員】
- ・ 住民の参加、巻き込み（インボルブメント）が重要である。【中島洋委員】
- ・ 災害時における地域での助け合いなどは、地域と行政が協働できる。【吉田委員】
- ・ まちづくりの単位である小学校区のコミュニティ活動の情報発信ツールが必要である。【中島久委員】
- ・ 自治会活動を知ってもらうため、毎月の情報誌を工夫しながら広報に努めることが、活動参加の活発化に必要である。【吉田委員】
- ・ さまざまな協働ができるよう、情報や人をつなぐコーディネート機能が必要である。【松崎委員】
- ・ 市民活動の情報発信を活発化できる人材が必要である。【松崎委員】
- ・ 情報格差のない、多数派だけに発信するのではない、情報をきちんと告知できるような配慮が必要である。【中島洋委員】

- ・ 情報発信において、インターネットを活用しない人への配慮が必要である。【長塩委員】
- ・ きめ細かく情報を発信することで地域の参画を活性化していくことが重要である。【岩下委員】
- ・ 楽しくコミュニティ活動を実感できる機会が必要である。【長塩委員】
- ・ 町に住んで良かったという満足感が得られるまちづくりのために、地域の人材育成が課題である。【吉田委員】
- ・ NPO活動を応援する地域のキーパーソンをどのように掘り起こし育てていくのが課題である。【中島久委員】
- ・ 信頼される良いリーダーを地域で育てていく仕組みが必要である。【岩下委員】
- ・ これから作るこの条例で、もっと私たち自身が工夫しながら良いものにしていくというような、市民のエンパワーメントを育てていく仕組みまで併せて考えていけたら良い。【上野委員長】
- ・ まちづくりの単位である小学校区の統計整備が必要である。【上野委員長】
- ・ 文化の分野の活動を地域づくりの中にどのように取り込んだらよいのが課題である。【中島久委員】
- ・ 市民からの課題解決提案ができる制度が必要である。【中島久委員】
- ・ 自治基本条例が目指しているものに向かっているかの検証と現状把握が必要である。【西村委員】
- ・ 個人情報保護法に過剰反応しすぎて地域住民の参加、巻き込み（インボルブメント）を阻害してしまうことが課題である。【荒木副委員長】
- ・ あまり条例の条文に頼らず、実質的な自治を進めることが重要である。【長塩委員】
- ・ 条例の名称は「参画と協働を拡充推進する」というような意味のものが良い。【西村委員】

### 3 次回の議事と資料について

- ・ 正副委員長で論点を整理し、条例づくりのたたき台を作り、それを基に話し合う。
- ・ 熊本市の審議会一覧と第6次総合計画を資料として用意する。